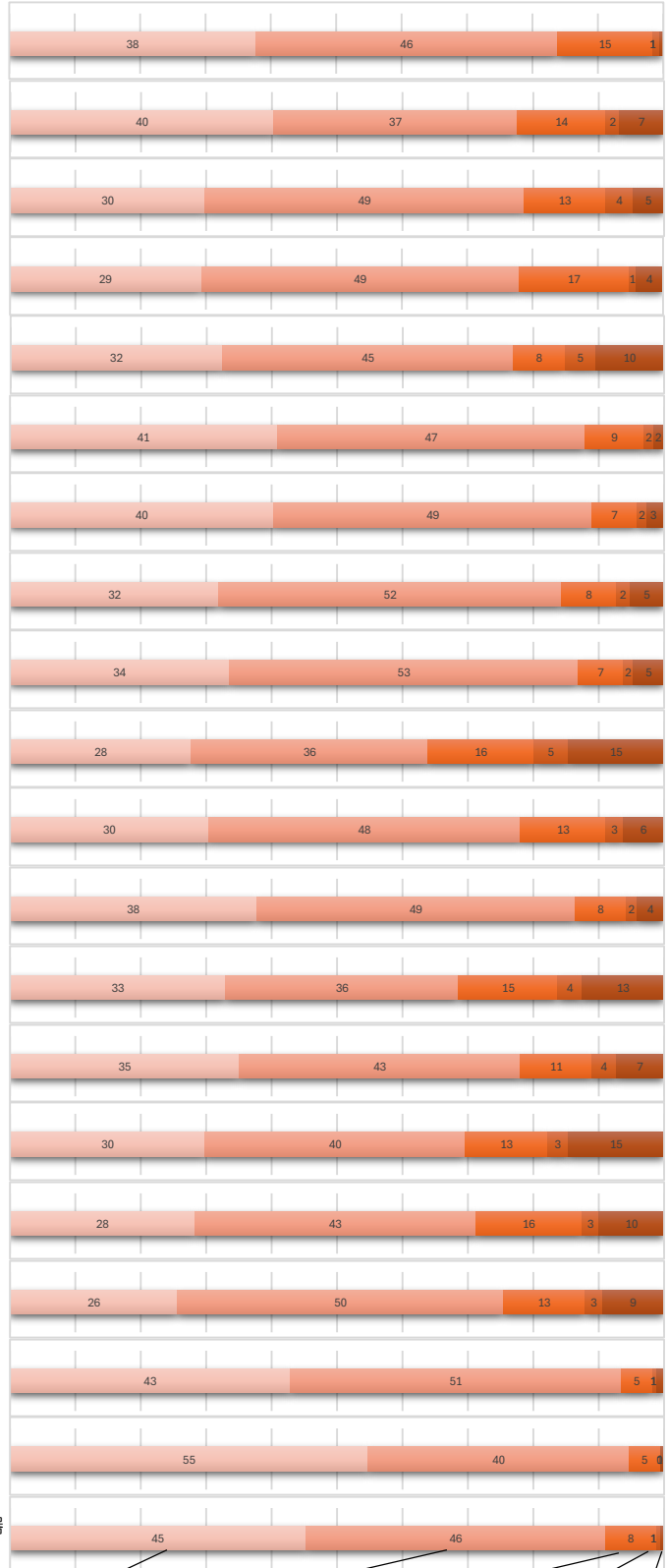


## 令和7年度 学校評価アンケート

児童・保護者・地域・職員を対象にした学校評価を実施しました。学校評価アンケートの結果から、本校の教育活動の成果と課題を分析し、今後の教育活動の改善に生かしていきます。引き続き、横浜深谷台小学校の子どもたちのためにご理解とご協力をよろしくお願いします。

### ～保護者・地域・教員アンケート結果～

- ① 学校は、学校教育目標や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている。
- ② 学校は、教科担任制や少人数支援等で学力の定着を図っている。
- ③ 学校は、児童一人ひとりに学び楽しさを実感させ、自らすすんで学習に取り組む力を育てている。
- ④ 学校は、児童一人ひとりの思考力・判断力・表現力の充実に努め、学力の向上を図っている。
- ⑤ 学校は、児童がいじめや差別、多様性について学び、共に生きる力が育まれるようにしている。
- ⑥ 学校は、授業や外遊び等で体を動かすことの楽しさや心地よさを味わうことができる活動を行っている。
- ⑦ 学校は、授業や行事、学校保健委員会等を通して、基本的な生活習慣の大切さを継続して指導している。
- ⑧ 学校は、各種活動や学習の振り返り活動を通して、自分の成長を実感し、次への目標がもてるようにしている。
- ⑨ 学校は、体験的な活動を積極的に設定し、自分の思いを表現しながら、自分づくりができるようにしている。
- ⑩ 学校は、いじめの未然防止・早期発見・再発防止のために児童に寄り添いながら実態を把握し、全職員で組織的な対応を行っている。
- ⑪ 学校は、組織的・計画的に授業力や学級経営力を高めていこうと努め、その姿を授業参観等で示している。
- ⑫ 学校は、生活科や総合的な学習の時間、行事など様々な場面で地域と継続的に交流をもてるように努めている。
- ⑬ 学校は、児童の教育的ニーズを理解し、全職員が協働して、個に応じた指導・支援を行っている。
- ⑭ 学校は、日々のコミュニケーションやアンケートなどで児童の声に耳を傾け、安心して学校生活がおくれるようにしている。
- ⑮ 学校は、きまりをもとに、全職員が共通の認識をもって指導にあたっている。
- ⑯ 学校は、タブレット端末を効果的に用いて各種活動や学習を行っている。
- ⑰ 学校は、児童への情報モラル教育を通して、安全で責任ある情報社会の一員としての意識を高めようとしている。
- ⑱ 保護者として、子どものよいところを認めたりほめたりしている。
- ⑲ 保護者として、子供の悩みや相談、困ったことなどを聞いている。
- ⑳ 保護者として、SNSやインターネットトラブル防止のため、デジタル機器に関するルールを決めたり話し合ったりしている。



そう思う

ややそう思う

あまりそう思わない

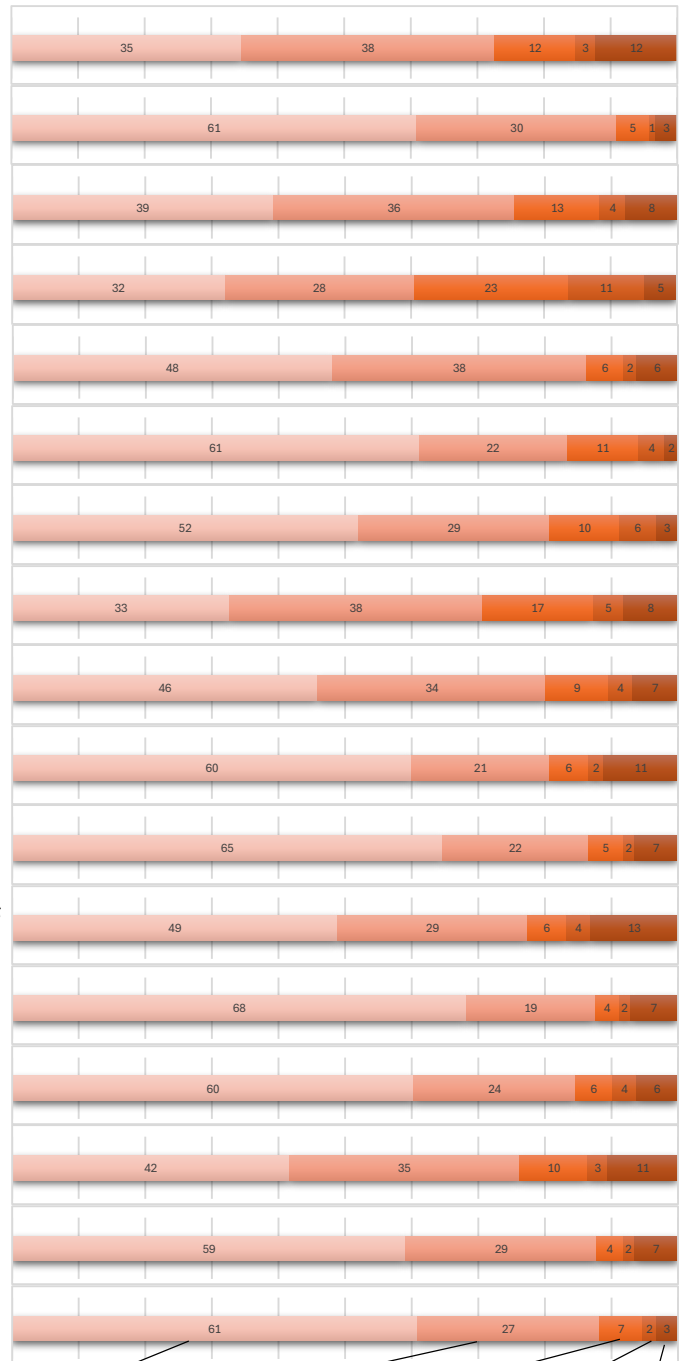
そう思わない

わからない

※単位は%（小数点以下切り上げ）

## ～児童アンケート結果～

- ① 学校全体の目標を意識して生活している。
- ② 担任の先生や専科の先生など、いろいろな先生に教わってわかりやすい。
- ③ 学ぶ楽しさを感じ、進んで学習にとりくんでいる。
- ④ 授業では、考えたことや感じたことを発表している。
- ⑤ 学校では、いろいろな考えや気持ちの人がいることを意識して生活している。
- ⑥ 授業や外遊びなどで、積極的に体を動かしている。
- ⑦ 栄養・運動・睡眠の大切さを理解し、生活にいかしている。
- ⑧ さまざまな学習や活動のふりかえりをしっかりと、つぎの目標をもてるようにしている。
- ⑨ 行事や学習で、さまざまな体験活動をとおして、自分の知識や考えがひろがっている。
- ⑩ 先生は、いやなことがあって相談すると、対応してくれる。
- ⑪ 先生は、授業やクラスがよくなるように工夫している。
- ⑫ 生活科や総合的な学習の時間、行事などで地域の方との交流をすることができた。
- ⑬ 先生は、全体にも一人ひとりにも対応して、いろいろなことを教えてくれる。
- ⑭ 安心して話したり相談したりできる先生がいる。
- ⑮ 横浜深谷台スタンダードをまもって生活している。
- ⑯ 学習の中で効果的にタブレットを使っている。
- ⑰ タブレットの使い方のルールをまもっている。



※単位は％（小数点以下切り上げ）

そう思う

ややそう思う

あまりそう思わない

そう思わない

わからない

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。全体を通して7～9割の肯定率でした。今後目に向けつつ、以下分析してみました。

○こどもとおとなの比較で差が大きいもの

- ・こどもの方が高評価→「個別支援」「いじめ対応」「端末活用」
- ・おとなの方が高評価→「思考力・表現力の充実」「振り返りと目標設定」「目標・方針の周知」

○教職員と保護者・地域の差が大きいもの

- ・教職員の方が高評価→「いじめ対応」「共通認識」「個別支援」

大人としては充分と考えていても、こどもの実感としてはややものたりないということや、その反対ということもあります。また、学校から家庭への情報共有が十分でなかったことも考えられます。

大人（教員）の目線だけではなく、主役であるこどもたちがどのように感じ、何を学んでいるのかといった観点を忘れず、保護者、地域の皆様と力を合わせて、こどもたちの成長を支えていきたいと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。